

重要な構成要素 ふなばしや 「船橋屋」

建築：1995（平成7）年

参道の景観を構成する要素

「船橋屋」は、1805（文化2）年に亀戸天神門前（江東区）に創業した老舗で、柴又街道敷設後の地割の変化によって生じた土地に出店した店舗です。1階では、開け放した軒庇下でくず餅やあんみつ等の店頭販売が行われ、2階は喫茶など飲食スペースとして利用されています。

店舗は、1995（平成7）年竣工と比較的近年の建築ですが、参道と柴又街道が交わる角地に立地し、参道に対しては店舗の平側ひらを向け、柴又街道には妻側つまを見せ、妻壁は参道と直交する形になっており、柴又街道を挟んで向かいに位置する「ゑびす家」や「たなかや」「だるまや」とともに帝釈天題経寺参道をつなぐ結節点としての役割を有しています。

建築は、切妻厨子2階建ての主屋にL字型に庇ひさしを巡らせる形式となっており、参道の他の店舗と棟の向きを合わせ、屋根、庇、軒庇上の看板などのファサードやまちなみの表情を作る要素によって参道の伝統的なまちなみ空間への配慮、参道の連続性と柴又街道側の表情を同時に表現するとともに、賑わいを演出しています。